

HIROSE-HOSP.

HIROSE-HOSP. ひろせほすぷ

Summer 2003



✦ 研宣会 広瀬病院の理念 ✦

☆ Professional Service

整形外科領域について高度の技術と知識、経験を提供します。

☆ Patient Oriented Service

必要なら他の医療機関や介護施設とも連携して、患者様中心の医療サービスを提供します。

☆ Informed Service

病状や検査結果、治療法について十分な説明と情報提供を行います。

☆ Warmhearted Service

心のこもった、癒されるサービスを提供します。

患者様サービス委員会より

当院では、患者様・ご家族の方々のご意見やご希望、苦情をお聴きする手続きの一つに意見箱を一階・三階・四階の電話台の三カ所に設置しております。

この度は、『冷房の入る時間が遅いのではないかと?』とご意見を頂きました。

早速、委員会にて検討し、午前9時～午後11時まで入れるように改善致しました。

今後も皆様に満足して頂ける、より良い環境・医療サービスが提供できるよう努力致してまいります。

司会 Tさん・Wさん、本日はわざわざお越しいただきましてありがとうございます。
今回の座談会のテーマは『大腿骨頸部骨折』です。まず、どのような骨折なのか、院長から簡単に説明させていただきます。

院長 お年寄り、ちょっとしたことで転倒して骨折することがよくありますが、大腿骨頸部骨折は、その中で代表的なものです。足のつけねが折れて歩けなくなります。高齢化社会となり、骨折の件数が増加してくるにつれて、寝たきりになる方も増えています。寝たきりの原因の第一位は脳卒中等の脳血管疾患ですが、第二位は骨折であることが知られています。寝たきりを防ぐためには早期治療（手術）と早期リハビリが極めて重要です。大腿骨頸部骨折は外側骨折と内側骨折に分類されます。

- ・ 外側骨折は関節包の外側の骨折で骨癒合しやすいところなので、骨折部を整復して固定するという手術を行います。他の部位の骨折の治療と原則としては同じです。
- ・ 内側骨折は関節包の内側の骨折で、骨癒合しにくい骨折です。骨折部のずれが少ないようならスクリュー等で固定します。ずれが大きい場合は骨頭を切除して人工骨頭に交換します。

今回、座談会にご協力いただいたお二人は、内側骨折ということで人工骨頭置換術を行いました。○骨折にしても外側骨折にしても、高齢者が骨折して動けなくなった場合にはなるべく早期に起き上がることが出来るようにしてあげることが大事なことです。寝たきりになると肺炎や痴呆の進行など、多くの合併症が出てくることとなります。

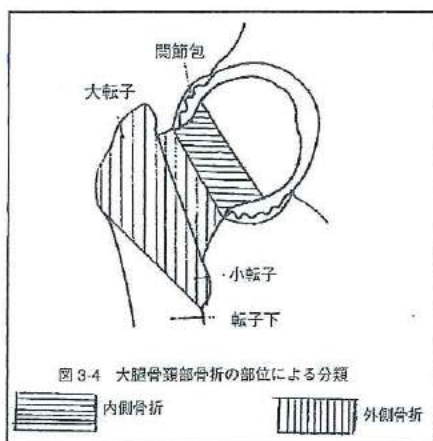
司会 お二人とも、骨折や手術と急に言われて困惑されたと思いますが、今後歩けるのかといった不安はありましたか？

Tさん 一番の悩みでした。今では周りの人がビックリするくらいまで歩けるようになって喜んでます。嘘のようです。

Wさん けがをしたときは、すべてが急なことで何も分からない状態で病院に運ばれて不安でいっぱいでした。でも実際、手術をしてもそんなに痛みを苦しむこともなく、早いうちから座れるようになり、徐々にリハビリが進んでいくことで希望がわきました。手術後初めて立ったときは夢のようで、歩けるようになってからは、毎日毎日、朝・昼・夜と歩行器やステッキを使って、病院の廊下を何往復もしました。

Tさん 私はその姿に励まされました。本当、毎日毎日がんばって歩かれていましたから。そこで、私はお礼に短歌をプレゼントさせてもらったんです。

“歩行器のきしめる音に胸いたし 友の全快の早かれと祈る”



- 司会 手術後間もなくリハビリが開始されたと思いますが、リハビリに対しての恐怖心はありませんでしたか？
- Tさん 手術後どう歩行までたどり着くのかと心配していたけど、リハビリをしていくと聞いて安心しました。院長 リハビリはとても大事なことです。でも、手術後のリハビリは痛いのではないかなど、すごく不安に感じるとおもいますが、それについてはいかがでしたか？
- Wさん まだ、立つこともできない状態なのにリハビリといわれ、どう行っていくのか気にしていました。しかし、初日に病室で足を曲げたり、伸ばしたり、持ち上げたときは痛みもほとんどなく、動く足を見て嬉しかったです。
- 司会 院内での歩行に慣れてから、病院の外にも歩きに行くようになったと思いますが、入院後初めて外を歩かれた時はどうでしたか？
- W・Tさん 全く違っていました。
- Tさん 病院の廊下と違って、凹凸もあつたり障害物があつたり、また自動車の圧迫感もあり、本当に神経を使いました。元気なうちは気にもしていませんでしたが、手術してからの歩行は恐怖心もあり、とても気を使いました。でも、少しずつ距離を延ばしていくことで自信がつかしました。また、常に理学療法士が付き添ってくれるので、安心感がありました。
- 司会 入院してから初めて家に帰ったとき、不便なことはどんなことでしたか？
- Tさん 家に帰れた喜びと同時に、不便さは一番に感じました。まだ何も持たずに歩くのは自信がありませんでしたし、ステッキで家の中を歩くのは無理です。でも、介護保険の利用で家の中に手すりをつけて、今では問題なく生活できています。
- Wさん 私の家は元々手すりはつけてありましたが、寝室が二階ということで、階段の利用に困りました。でも、理学療法士と相談して、退院後の生活に合わせてリハビリを行ったので、階段も問題なく使えています。
- 司会 お二人とも、日常生活など工夫して暮らしていらっしゃるようですが、今後のことなどでも院長へ質問などございますか？
- Wさん 手術部位が痛んだことはほとんどないのですが、歩きすぎたときなどは少しだるさを感じます。痛んだりする人はいますか？
- 院長 Tさんは少し踏み込んだ際などに痛みがありましたね。多少の個人差はありますが、強い痛みで困るということはほとんどないようです。
- Tさん 今回の骨折で骨粗鬆症も気になるようになり、気をつけています。特別に補給した方が良い物などはありますか？
- 院長 カルシウム・マグネシウム・ビタミンDなどいろいろな食材から摂ることが大事ですね。例えば、カルシウムを摂るのに牛乳や乳製品がどうしても苦手という人は、サプリメントなどで補うのもいい方法だと思います。
- 司会 今回お二人から、手術からリハビリまでの感想・意見を頂くことで、改めて入院中の患者様の不安や恐怖を感じ取ることができました。年々進む高齢化社会に伴って、骨折の件数も増えています。骨折によって寝たきりになることがないように、一人でも多くの方が元のように元気な姿でいられるように、私たちは協力していきたいと思っております。

“リハビリの師の心のぬくもりに こたえられてうれし 足の運びよ”

Tさんより

ご協力、ありがとうございました。



水中リハビリテーション

《内 容》

週に2回（火曜日・金曜日）はアズーリのプールをお借りして、水中でのリハビリを行っています。

対象者は、入院患者の方で、医師により水中訓練が必要と判断された患者様です。理学療法士と一緒にプールに入って訓練を行っています。

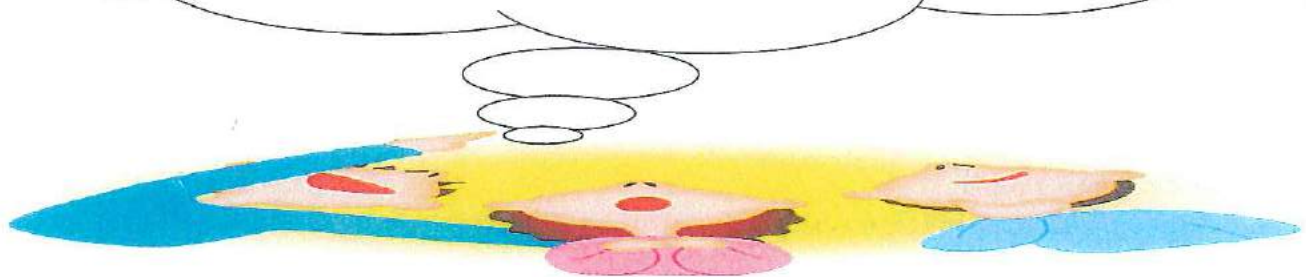
訓練内容は、足の骨折などで松葉杖歩行をしている方や膝・腰の痛みで歩行困難な方などには、主に水中での歩行を行ってまいります。前歩き・横歩き・後ろ歩きなどいろいろな歩行をしたり、きれいな歩き方を水中で再学習してまいります。腕の骨折などで手が上がらない方には、水中で重力を除いた状態で腕を上げる訓練を行います。また、水圧を利用して、筋力トレーニングを行ったり、浮き具を使用した訓練も行っています。

患者様に好評のようで、楽しみにしておられる方も多いようです



《患者様の声》

上手く歩けるから、うれしい。おもしろい。早く治る気がする。気に入っている。週に2回ではなく、もっと入りたい。最高☆みんなで入れるから楽しい。関節がよく動く。自由がきく。足が悪くても、どんな歩き方も出来る。水中訓練があってよかった。



発行：医療法人社団研宣会

専門性を生かした

患者様中心の医療と看護

広瀬病院

〒760-0079 高松市松縄町 35-3

Phone:087-867-9911 (代)

FAX:087-867-9988

ホームページ <http://www.hirose-hosp.or.jp>

Email info@hirose-hosp.or.jp